



2018 年 11 月 15 日発行

認定NPO法人ビッグイシュー基金

(大阪事務所) 〒530-0003 大阪市北区堂島2丁目3-2 堂北ビル4F

TEL: 06-6345-1517 FAX: 06-6457-1358

(東京事務所) 〒162-0065 東京都新宿区住吉町8-5 シンカイビル 201 号室

TEL: 03-6380-5088 FAX: 03-6802-6074

E-mail: info@bigissue.or.jp URL: https://bigissue.or.jp/

デザイン: 株式会社くとうてん



①歩こう会100回記念イベント(中之島界隈を歩く) ②第1回ダイバーシティカップin関西(photo:Naho Nakamura)

③第9回大阪ホームレスクリスマスパーティ(笑いヨガのシーン) ④今期の発行物

⑤第3回大阪ホームレス会議(食のセーフティネット) ⑥ソケリッサ! 東池袋中央公園(photo:河原剛)

03 はじめに ――積み重ねた活動を生かし貧困問題へ取り組む

04 第11期の活動概要 ――ポスト10周年への試行の年

06 つながって生きる ――生活自立応援プログラム

06 ・何があっても大丈夫 ――当事者への情報や交流機会などの提供

08 ・暮らしを取りもどす ――健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動

09 ・仕事がしたい ――仕事・就業応援プログラム

10 ・生きていてよかった ――スポーツ・文化活動プログラム

12 生きやすい社会をととのえる

――ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案

12 ・くらしの基盤をつくる ――住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業

13 ・新しい仕事をつくる ――若者をホームレスにしないために

13 ・依存症からの脱却 ――ギャンブル障害の調査・提案事業

14 ・ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり）
――ダイバーシティサッカー全国展開への第一歩

15 市民が社会をつくる ――ボランティア活動と市民参加

15 ・参加のチャンスをつくる ――ボランティア参加プログラム

15 ・市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付 ――寄付参加プログラム

17 ・広報・メディア掲載他

18 これまでの発行物一覧

19 ありがとうございました ――市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

20 決算報告

22 社会を変えるのはあなたの寄付です ――会員・寄付の制度について

23 誰にでも居場所と出番のある“包摂”社会をつくる

――ビッグイシュー基金とは



2018年は、特に、6月から9月にかけて、大規模な自然災害が起きました。大阪（6月18日、震度6弱）や北海道（9月6日、震度7）での地震、7月の豪雨は15府県の広域を連続・集中的に襲いました。いつ、日本のどこでも大地震、大水害があっても不思議ではない状況を示しました。

ご家族やお知り合いで被災した方もおられるかと思いますが、みなさんの生活の復興を心よりお祈りします。

いま基金は第11期の事業や活動を無事に終えることができました。これも、ともに活動をしてくださったあなたをはじめ、多くの市民のみなさんの参加のおかげです。改めてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

第11期の活動をふり返って思いますのは、一つひとつの事業のやり方が進化したことです。事業を進めるうえで今まで以上に、外部の個人や団体との連携や共同について複眼的、重層的な物の見方が求められ、時に、戸惑いや逡巡も生まれ、立ち止まることもあります。

これまでの連携と共同をふり返ってみますと、連携の相手となっていたいただいた個人や団体が思い浮かびます。

その一部ですが、大阪では日常的に「釜ヶ崎支援機構」「協力医療グループ」「フードバンク関西」、東京では「もやい」「つくろい東京ファン」などがあり、東日本大震災の非常時には「せんだい・みやぎNPOセンター」がありました。現場の活動では『路上脱出ガイド』の掲載団体を中心に多様な連携やネットワークがあり、若者問題では『若者応援プログラム集』の80団体などがあります。政策提案の委員会（長）

では住宅（平山洋介神戸大教授）、若者（宮本みち子放送大学副学長）、ギャンブル障害（帚木蓬生・精神科医）があります。その他、シビックエコノミー（推進会議）、ダンス（アオキ裕キ・振付師&ダンサー）、サッカー（ダイバーシティサッカー協会）、「路上文学賞」（星野智幸・小説家）などです。

ギャンブル障害の調査・研究でも、既刊の3つの報告書を社会に発表しました。それを土台

に今、大阪市内のホームレスの人のギャンブル障害との関係を、聞き取り調査（量的作業）と3ケタのヒアリング（質的調査）で明らかにする作業を続けています。これは京都大学との共同、市内有力ホームレス支援NPOとの協力によって実施されます。この調査は日本の、ホームレス問題とギャンブル障害問題を同時に書き換えるかもしれない可能性を持つものです。

こうしたホームレスの人々が持つ多面的な側面を一つひとつ明らかにし、当事者を支援しようとする調査は、行政や既存の助成団体の補助金などではできなかったことです。基金を応援して下さる2,900人ほどの個人のみなさんを中心とする寄付など、独自で、しぼりのない資金があって初めて可能になったものです。

こうして積み上げてきた作業はホームレス問題を超えて、日本社会の底辺や、幅広い生活困窮者の人々が抱える、貧困問題の解決にも活用していただけるのではないかと思います。具体的には、『路上脱出・生活SOSガイド』、「ギャンブル障害調査・研究」、「低家賃住宅の開拓と情報提供」、「当事者個人々向けの仕事・生活プログラム」、「市民的交流サロンづくり」、「もう一つの仕事づくり」、「人と人をつなぎ、元気にする社会性スポーツ」などの情報やプログラムや“場”です。

どうか、これからも基金の事業、活動に忌憚のないご意見をいただき、そして、ご参加いただきますよう心から願います。

2018年11月15日
認定NPO法人ビッグイシュー基金理事長



佐野章二

貧困問題の解決への模索

ビッグイシュー基金は、2007 年からリーマンショックなど世界金融危機や東日本大震災・福島第一原発事故などによって大きく揺れる社会の只中で活動を始めました。社会と時代の変動を背景に、3 つの事業の柱、「ホームレスの人々の自立応援」「ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案」「ボランティア活動と市民の参加」を掲げました。そして、当事者の人自身が問題解決の担い手になれる「自助型の応援」という考え方をもとに、活動を続けてきました。

11 年目となる 2018 年、路上生活者は 4,977 人と 10 年前から 7 割減りました。彼らの平均年齢は 60 歳をこえ、路上生活が 10 年以上におよぶ人も 34% と、高齢化と長期化が問題になっています。一方、東京都内での「ネットカフェ難民」が 4,000 人にのぼり、その 6 割が 40 歳未満の若者であると報告されています。高齢の人が路上に取り残され、若い人々は「見えないホームレス」となってネットカフェなどで過ごしている状況があります。また、近年、国内の相対的貧困率が 16% を越え、路上生活者やホームレスになる恐れのある人が増えています。

こうした、路上生活者、広義のホームレスの人、生活困窮者が重層的に、貧困問題の当事者となっています。第 11 期は、複雑化するホームレス問題に加えて、これまでの基金のプログラムを生かして、広く貧困問題の解決にも寄与できないか、模索する時となりました。

（ホームレスの人々の自立応援事業——情報提供、相談、仕事・就業、クラブ活動など）

「路上脱出・生活 SOS ガイド」へ、16,000 冊発行

まず情報提供では、『路上脱出ガイド』（大阪編）を『路上脱出・生活 SOS ガイド』として再編しました。路上脱出に加え、路上生活化予防、生活再建という視点から情報を整理し、17 年 10 月に 1 万部を発行し半年間で 9,000 部を配り、18 年 5 月には 6,000 部を増刷しました。東京の路上脱出ガイドは今期 2,300 部を配り、5 月に 1,500 部増刷。大阪での反響も受け『生活 SOS

ガイドー東京 23 区編』へと書きかえる作業も始めました。また 17 年 12 月には、ガイド発行を記念しフードバンク関西との共催で「第 3 回大阪ホームレス会議」を開き、「食のセーフティネット」について当事者、支援関係者、一般参加者の計 112 人が集まり議論しました。

「路上脱出ガイド」は 10 年間累計で 104,452 冊が配られ、この間路上生活者全体が 7 割弱、9,577 人減ったことにも、少なからず貢献していると思われます。

街歩きクラブ「歩こう会」、100 回記念の会

生活自立応援では、10 代～70 代の幅広い年代の人からの健康、住宅、法律、依存症などの相談がありました。特に障害や認知症を抱える方には、訪問看護利用の手続きや、施設入所、また、他団体や行政・医療関係者とも連携し、病院や福祉事務所への同行などのサポートをしました。

月例サロンは仕事応援を中心に、健康、季節のテーマなどを当事者とともに企画し運営しました。仕事・就業応援では、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売者を（有）ビッグイシュー日本と協力してサポート。また、東京で生きづらさを抱えた若い女性を支援する NPO 法人 B O N D プロジェクトとともに「食×職」の可能性を探る「ビッグイシューカフェ」を開催しました。

スポーツ・文化活動では、サッカー、英会話、将棋、料理、パソコンなどのクラブ活動を応援しました。なかでも「歩こう会」は 18 年 5 月に開催 100 回目を迎え、記念イベントを開きました。当事者が参加するダンスチーム「新人 H ソケリッサ！」も活動 10 周年を迎え、記念の「東京近郊路上ツアー」を行い、全 15 公演を終えました。

（ホームレス問題解決の実践的ネットワークと政策提案——ギャンブル依存症問題 / 住宅問題 / ダイバーシティサッカー / シビックエコノミー）

ホームレス問題の原点、ギャンブル障害に挑戦

ギャンブル依存症問題への取り組みでは、米

本副理事長を中心に「ギャンブル依存症問題研究チーム」で研究会を 8 回実施。その成果は、報告書第 3 弾『新版 疑似カジノ化する日本ーギャンブル障害を乗り越える社会へ』としてまとめ、18 年 10 月 15 日に発行しました。また、京都大学と共同し、NPO 法人釜ヶ崎支援機構などと協力した「大阪市におけるホームレスのギャンブル依存症の実態調査」を並行して行っており、来期中に完了を予定しています。

住宅事業では、東京・大阪でステップハウスの運営を継続。緊急用シェルター 2 室を含む 8 室を延べ 141 人が利用し、6 人がアパートに移りました。特に関西で、一般の低家賃住宅に移る事例が増え、これを含め 4 年目を迎えたステップハウス事業のノウハウを報告書にまとめる作業を行っています。

スポーツによる社会包摂事業では、10 周年を記念し基金から独立した「ダイバーシティサッカー協会」と共同し、福祉医療機構の助成を受け事業を行いました。「スポーツ交流サロン」や「ダイバーシティカップ 4」（17 年 11 月）を開き、これを『ダイバーシティサッカー活動報告書』（5,000 部）、スポーツで若者を応援する全国的な事例調査『社会（スポーツ）をあそぶガイドブック』（2,000 部）にまとめ発行しました。そして全国展開の第一歩として、関西でも実行委員会が発足。17 年 9 月のプレ大会、18 年 1 月と 3 月の交流試合を経て、5 月に 150 人が参加する「第 1 回ダイバーシティカップ in 関西」を開きました。

シビックエコノミー事業では、報告書『シビックエコノミーの可能性』の配布を継続。ベーシックインカム制度への展望もあわせ、今後の展開についての議論を継続しています。

（ボランティア活動と市民の参加——ボランティア、寄付、そして広報活動）

ボランティア希望者には毎月「説明会」を開催。登録者は東京 618 人、大阪 437 人、札幌から鹿児島までの各地で 75 人、合計 1,130 人でした。4 月には登録者に、基金の活動で参加したいプ

ログラムの内容や動機などを聞くアンケートを行いました。

市民応援会員の人は 399 人、企業などの会員は 2 件。寄付金控除のある「出会い寄付」をはじめとする 5 つの寄付メニュー参加者は 793 人、任意寄付参加者は 1,167 人、その他寄付者（チャリボン等）528 人、遺贈・大口寄付 3 人となりました。この結果、市民応援会員を含む寄付参加者は延べ 2,892 人、会費＆寄付額は 3,560 万円となりました。寄付参加の促進のため、新たに大阪府内に居住の方は所得税に加え、個人住民税においても、寄付額の一部が返金対象になるようにしました。また 8 月には会報の『ビッグイシュー基金通信』に遺贈寄付広告を掲載しました。

広報では、基金便りや基金通信「希望前線」を各 24 回発行。このほかホームページ、ビッグイシューオンライン、Facebook や Twitter などの SNS、「Google 広告」などの活用を継続しました。マスメディアでも、大阪ホームレス会議やダイバーシティカップの取り組みなどが取り上げられました。

（10 周年記念事業について）

2017 年 9 月、大阪で設立 10 周年記念の交流サロン「感謝と交流の夕べ」を開きました。

オフィスの拡張をかねた市民交流の場の整備は、18 年夏に 4 階建てビル 1 棟を借りる話などもあったのですが、残念ながら決まらず先送りとなっており、ひき続き努力を続けます。また、基金の 10 周年のあゆみと活動の現状と課題を当事者、応援者、市民とともに共有する「報告会」は東京、大阪それぞれで開く予定がいまだ開けておらず、課題となっています。

ホームレス当事者や経験者の生活の自立を応援するために、情報提供、健康や住宅、仕事、法律などの相談、スポーツ・文化活動の応援を行いました。家はあるけれど生活に困っている人や、出所者・在監中の人など、複雑で多様化する相談に応える上で、民間支援団体や行政窓口などと連携するケースが増えています。同時に定例の夜回りや炊き出し回りなど、路上生活を送る人々へのはたらきかけを継続し、当事者が参加し、主体となれる機会や場をつくりました。

【何があっても大丈夫——当事者への情報や交流機会などの提供】

路上脱出ガイド

2008年1月に初めて発行した『路上脱出ガイド』には、路上を生き抜く上で必要な炊出しや緊急支援の情報、仕事をしたい時や生活保護の申請など路上脱出に役立つ情報を掲載し、当初から、路上に出ることのないような予防的な情報も一部掲載していました。

これまで、札幌、東京、名古屋、京都、大阪、福岡、熊本の全国7地域でも発行され、基金HPから各地のPDF版をダウンロードできるようにしてきました。東京・大阪以外のガイドは、各地域のボランティアが中心となって自主的な編集・発行作業が行われています。そして印刷費は基金で負担しています。

初版発行以来、東京では68,000部（うち今期2,300部）、大阪では37,069部（同10,269部）を配布しました。路上での手渡しの他、最近では公共図書館、お寺などを通じた配布が広がり、18年5月には東京版を1,500部増刷しました。2017年10月には大阪版を『路上脱出・生活SOSガイド』として一新し、これまでの路上を生き抜くための情報に加えて、若者、女性、母子世帯、高齢者など、生活に困窮するリスクが高いとされる人々が利用できる支援の情報を追加しました。この発行を記念して、認定NPO法人フードバンク関西と共催したイベント「第3回大阪ホームレス会議～食のセーフティネットのいま～」では、フードバンクや炊き出しなどの「食」を通じた支援を行う市民団体と、それを利用した経験のあるホームレス当事者が登壇し、参加した112人とトークセッションを繰り広げました。SOSガイドは図書館や支援団体を通じて、半年間で9,000部が請求され、18年5月には6,000部を増刷しました。また18年9月の基金HPリニューアルでは、ガイドに掲載された多様な支援情報を整理し、インターネットからもアクセスしやすくしました。



※各地のガイドは基金HPからPDF版を無料ダウンロードできます。

夜回り・道端交流会

大阪では（有）ビッグイシュー日本と合同で月2回の夜回りを、東京でも一般社団法人つくろい東京ファンドと月1回の合同夜回りを継続しています。路上脱出・生活SOSガイドや、支援の情報を書いたチラシ「ビッグイシュー通信」をはじめ、衣料品やカイロなど日用品を延べ2,915人に配布しました。当事者の交流と楽しみの場である大阪の「道端交流会」では、ビデオ上映会をメインに大阪市北区と西成地域で15回開催。夜回りや緊急シェルターでの呼びかけを通じて、延べ167人が参加しました。

食料品の提供

大阪では個人の方からの寄付品の食糧や「フードバンク関西」から定期的に配達される食料品、東京では個人の方やUBSグループなどの企業から寄付された食料品を、それぞれ夜回りや事務所で配りました。収入や家はあるが食べることに困っている、という相談者には、事務所で食事をとってもらい、利用できる生活支援についての情報提供や、支援団体や行政窓口との連絡調整をしました。

定例サロン

ホームレス当事者が参加、交流する場として大阪、東京で月に1回「定例サロン」を開いています。雑誌の販売者などを中心に、働くことや衣食住をはじめ、基金プログラムの活用など、当事者自身が生活や仕事について話し合い、決めていける「仕事・生活サロン」として開催しました。「お客さんとのコミュニケーション術」、「季節に合わせた衣類の楽しみ方」、「路上で気を付けたい疾患・栄養講座」、「路上のストレス・マネジメント」、「災害時の対応について」など、カラーコーディネーターや大手レコード店の販売マネージャーの方などのゲスト講師も迎えてレクチャーを受けた後に、話し合う時間をもちました。基金10周年を記念したサロンも開催され、東京・大阪合わせて1年で延べ641人が参加しました。

クリスマス・越年の活動

第9回目となる大阪ホームレスクリスマスパーティでは、「笑い」をテーマに市民、ホームレス当事者、スタッフ・ボランティア165人が参加しました。社会的なテーマも「笑い」に変える、愛知の劇団「笑劇派」を迎え、この日のために書き下ろした「笑劇」や、当事者とインターン生による実行委員が企画した「大喜利ゲーム」を楽しみました。東京では落語家の立川らく人さんをゲストに、「時そば」などの噺を市民、当事者、スタッフ・ボランティアなど50人が楽しみました。

越年・越冬の活動では、池袋、大阪市西成区、岡山、熊本、鹿児島での越冬支援活動に食材費の一部を提供しました。また、年末年始には行政の支援が手薄になるので、簡易宿泊所やネットカフェなどの緊急宿泊費用のサポートを延べ24人に行いました。



大阪ホームレスクリスマスパーティ



東京：着こなしを楽しむサロン

緊急・災害時のサポート

11 期は低温、猛暑、台風や大雨、地震など、異常気象や自然災害が頻発しました。マイナス零度を下回る予報が出た時や、警報発令時には宿泊費用貸し付けの仕組みを設けて路上からの避難と安全確保を呼びかけ、東西で 37 件の利用がありました。また、事務所内で災害が起きた際の避難方法などを定例サロンで話し合ったり、被災した住居からの引っ越しや片付けなども応援しました。東京では、悪天候を理由とするシェルター利用者が 32 人と、これまでの理由として最も多かった「体調不良」（今期 24 人）を上回りました。

【暮らしを取りもどす——健康・住宅・法律・金銭管理など相談活動】

定例の個別相談日など、当事者が困りごとを相談できる場を設け、希望によって弁護士や医師、カウンセラーなど、専門家につなぎ、当たりまえの暮らしを取りもどすサポートをしています。

健康・福祉相談

大阪では月 1 回、府保険医協会と歯科保健研究会の協力を得て、内科と歯科の定期検診を開き、延べ 94 人が受診。服薬や加療が必要な人には無料・低額診療制度がある総合病院や、無料診察をしてくれる歯科につなぎ、15 人が受診しました。住まいのある人にも、福祉制度や医療費減免の仕組みを活用し、生活状況に合わせサポートしました。今期はプロボノ看護師による保健相談会（体重・血圧チェックなど）、鍼灸の出張施術など予防的な健康相談プログラムも開き、延べ 88 人が参加しました。

東京では 7 月にボランティアの医師、看護師、歯科医師、社会福祉士、薬剤師、鍼灸師など専門家の協力を得て、健康相談会を開き、計 12 人が参加し、体調管理や健康に関する相談の他、必要に応じて医療機関につなぎました。また、介護施設と連携した認知症当事者のサポートや、疾患のある当事者を訪問看護につなぐなどのサポート、症状が重篤な人の病院同行（東京 27 件）などを行いました。



東京：健康相談会の様子



大阪：はり灸施術の様子

法律・住宅相談

法律相談では路上生活者の支援に詳しい弁護士と連携し、3 人の相談に対応しました。債務整理、住宅からの退去トラブル、相続問題などについての相談でした。

住宅相談では、居住支援法人や不動産業者と連携し、初期費用・保証人が不要な低家賃住宅の情報提供をしました。また、住居費と生活費の試算、引っ越しの手伝い、住民票移動、賃貸契約の立ち合いなど、安定した住まいを確保し維持するためのサポートや、さらに、路上からの一時的な居所として利用できるステップハウスとシェルター（12 p. 参照）を東西で 8 室を運用し、延べ 140 人が利用し

ました。東京ではアパートへの転宅や、他団体と連携した住居の確保など、39 件の相談がありました。大阪での相談は 51 件となりました。

金銭管理

路上で現金や身分証などを携行するのは盗難の危険があります。住所がないため銀行口座をつくれないう人で希望者に、積立金・貴重品の保管手伝いをしました。アパート入居の初期費用や、仕事のための定期券購入などの経費の保管や積立を目的に延べ 39 人の利用がありました。この他、東京では、4 人の当事者と定期的に家計簿の確認などを行い、金銭管理を応援しました。

【仕事がしたいー仕事・就業応援プログラム】

雑誌『ビッグイシュー日本版』販売者の応援事業

再就職の足掛かりに、ホームレス状態の人なら誰でもすぐに始められ、現金を得られる仕事、雑誌『ビッグイシュー日本版』の販売を勧め、必要なサポートをしました。また、販売に関する情報を掲載した「ビッグイシュー通信」を東京・大阪それぞれの夜回りや炊き出しの現場などで配布し、情報提供をしました。

2018 年 8 月現在、ビッグイシュー誌の販売者は、全国で 114 人です。販売場所への定期的な巡回・ヒアリングなどを通じて、必要に応じて健康や住宅等の相談事業につなげました。また、猛暑が続いた夏場には、塩飴やボランティア手製のスポーツドリンクの配布、定例サロンでの熱中症対策講座などを通じて、健康に販売できるよう応援しました。



『ビッグイシュー日本版』販売の様子

就業応援の連携事業

連携 NPO や学校関係者の協力を得て、当事者が講師となってホームレス問題について語る場の企画、運営を行いました。また、ソーシャルワーカーなど専門家のプロボノによるコーチングやカウンセリング、路上での仕事のストレスを軽減するボディワーク（体操）の場を開き、再就職に向けて心身の状態を整える機会を提供しました。その他、履歴書の作成サポートや、フットウェアメーカーの協力を得てシューズ販売の体験ができる会を開くなど、多面的に仕事に関われる機会をつくりました。東京では 17 年 9 月、NPO 法人 BOND プロジェクト、枝元なほみ理事とともに「食×職」の可能性を探る「ビッグイシューカフェ」を開催。当事者もウェ이터として活躍しました。

身だしなみ、ファッションショー、POP 講座

大阪、東京それぞれで衣料品や靴、衛生用品の寄付の受け入れや、プロ美容師ボランティアによるヘアカットの場を設けるなど、身だしなみを整える場と機会を提供しました。また定例サロンでは、市民を交えた「ファッションショー」や、大手レコード店のスタッフを講師に迎えた POP 講座を開くなど、他人に見られることや、働くことについて考える場を設けました。



「手書き POP 講座」の様子

ビッグイシュー卒業生・就業者との関わり

仕事や住居を得てビッグイシューを卒業した人とも継続的なつながりを持ち、定例サロンやパーティ、サッカーなどのクラブ活動への参加を促し、関係を続ける機会を持ち続けました。また、卒業後の仕事や生活状況についてのヒアリングも行いました。

【生きていてよかったースポーツ・文化活動プログラム】

基金では設立以来、ホームレス当事者による「スポーツ・文化活動」を重視しています。孤立しホームレス状態になった経験のある人が、再び人とのつながりをつくり、生きる喜びや意欲を回復する機会になるからです。11 期は新たにパソコンクラブも発足。同時に活動 10 周年の節目を迎えたクラブもあり、主催する当事者や関係者が記念事業に取り組みました。

スポーツ活動ーダイバーシティサッカー協会との共同

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」は、東西で月 2 回の定例練習と交流を継続しながら、「ダイバーシティサッカー協会」の活動に参加し、活動の輪を広げました（14p. 参照）。その他、キャッチボールやボウリングなど単発の活動も行われました。



「野武士ジャパン」大阪チーム



「野武士ジャパン」東京チームの練習風景

文化活動ー節目を迎え、新たに広がる

東京では 6 月にパソコンクラブが発足し、月 2 回、ボランティア講師にパソコンを教わりながら、プロフィールや好きな歌詞などをタイピングしながらスキルを磨いています。なかには英語クラブ、カレー部など、複数のクラブを掛け持ちする人も出てきています。そのほか、雨の日の「囲碁クラブ」や、当事者主催のビデオ上映会なども、不定期で開かれました。



パソコンクラブ



カレー部

100 回目迎えた町歩きクラブ「歩こう会」

大阪では、2007 年から続く町歩きクラブ「歩こう会」が月 1 回の活動を重ね、2018 年 5 月 27 日には 100 回目を迎え記念イベントを行いました。主催の濱田さん（ビッグイシュー誌販売者）の案内で、約 50 人の参加者が、大阪市中之島周辺の近代建築や国産ビール発祥の地などの歴史的スポットを巡り、その後の茶話会で過去 100 回の歩こう会の足跡や、印象に残ったコースなどを振り返りました。歩こう会は活動開始以来、ルートの下見から資料の作成、当日の引率まで自主的に「世話人」をする濱田さんがコーディネートしています。ご興味のある方は info@bigissue.or.jp までお問い合わせ下さい。



主催の濱田さん



開催 100 回記念イベント

ダンスチーム「新人Hソケリッサ！」10 周年迎える

東京では、振付家でダンサーのアオキ裕きさんとともにつくる、路上生活者や、元・経験者によるコンテンポラリーダンス・チーム「新人Hソケリッサ！」が、活動 10 周年を迎え、それを記念して路上を中心にダンスツアーを開きました（期間：2017 年 6 月から 2018 年 8 月末）。全 15 公演、延べ 1,000 人を超える来場があり、活動の原点である“路上で生まれる表現”を披露しました。18 年 3 月からは活動資金獲得のためのクラウドファンディングを実施し、140 人の方から 872,000 円のご支援をいただきました。8 月には大阪釜ヶ崎と京都への公演&ワークショップ遠征などを行い、活動の場と幅を拡げました。また、18 年 11 月にはマンチェスターで開かれる「ホームレスサミット」への参加や、19 年の夏には英国での路上公演などが予定されており、国内にとどまらず海外でも公演を行う予定です。ソケリッサは様々なアーティストとのコラボや「場」からのインスピレーションを得て、活動を豊かにしています。ソケリッサの出演情報は HP（<http://sokerissa.net/>）をご覧ください。



「新人Hソケリッサ！」メンバー



「日々荒野」10 周年記念ツアー最終公演

生きやすい社会をととのえる

——ホームレス問題解決への実践的ネットワークと政策提案

現場で、対人援助を中心とする生活自立応援プログラムに対し、現場で起こる問題の解決を展望し、対社会へと問題提起や解決のための方策を提案する活動です。住宅政策や実験的事業、新しい仕事づくり、ギャンブル障害、人々をつなぐ社会性スポーツの展開などに取り組んでいます。

【くらしの基盤をつくる—住宅政策提案事業とステップハウスの実験的事業】

基金では住宅問題の改善が「貧困問題解決の要」と考え、「住宅政策提案・検討委員会」（委員長：平山洋介神戸大学大学院教授、6期～8期）を設け、住宅政策の提案・調査をしてきました。これまで『住宅政策提案書』、『若者の住宅問題—住宅政策提案書 [調査編]』、『大転換！住宅問題「市民が考える！若者の住宅問題&空き家活用」シンポジウム報告書』と3冊の冊子を発行しました。（18p. 参照）

ホームレス状態の人をはじめ、安定した住まいの確保が難しい人がいる一方で、全国で820万戸（2013年総務省調査）といわれる「空き家」が社会問題化しています。これら2つの問題をマッチングして解決できないか？ 基金ではその方策を模索するための実験・モデル事業として「ステップハウス」の運営に取り組んでいます。

ステップハウスとは？—空き家×住宅困窮者のマッチングモデル

ステップハウスは、連携団体や篤志的な家主の方から提供された空き物件を基金が借り受け、ホームレス状態の人に低廉な利用料（月15,000円～）で提供する事業です。初期費用、保証人なしで一定期間（6か月）利用でき、利用料の一部の月1万円が本人の積立金になります。たとえば利用料15,000円の部屋を半年間利用した場合、家賃分（月5千円）を差し引いた6万円が手元に残ります。この積立金と基金のサポートを活用して、アパート入居や就職活動など、次の「ステップ」への応援をします。

大阪では、2物件、全6室を、ステップハウス5室、緊急用シェルター1室として運用しました。いずれも「空き物件を活用してほしい」という申し出を受け、家主さんには固定資産税と住宅補修費の一部として家賃5千円（一室）をお支払いする契約です。今期はステップハウス11人、シェルター73人（いずれも延べ人数）の利用があり、6人がアパートに移行しました。この事業でシェアハウス家主や、保証人不要の物件を仲介する不動産業者など連携先が増え、利用者の移行先も多様になってきています。

東京では一般社団法人「つくろい東京ファンド」（代表理事・稲葉剛氏）と業務提携し、新宿区の物件「ふらっとハウス」内2室を、ステップハウスとシェルターとして運用し、ステップハウス2人、シェルター延べ56人が利用しました。利用者にはアパート転宅のための身分証、携帯電話の取得、物件探しなどの応援を行いました。これまで東京ではアクセスしやすい物件が見つからず、転宅先の確保が課題でしたが、今期は理解ある不動産業者の協力を得て民間アパートに転宅するケースを作ることができました。こうした関係者とのつながりは、ステップハウス利用者以外の住宅相談にも活かされ、少しずつアパート入居のサポート件数が増えています。



尼崎市内のステップハウス



「ふらっとハウス」で一息（東京）

【新しい仕事をつくる—若者をホームレスにしないために】

「出口≒仕事づくり」の可能性—シビックエコノミー調査事業

『若者応援プログラム集』の発行などから見てきたのは、若者ホームレスを中心とする社会的不利・困難を抱える若者のための「出口≒仕事づくり」の極端な不足でした。そこで8期より、市民が社会問題の解決に挑戦する活動や場を、同時に新たな仕事・雇用の場にもする「シビックエコノミー」の試みの可能性を調査してきました。9期（16年8月）にはシビックエコノミー推進会議（6団体が参加）を開き報告書『シビックエコノミーの可能性』（A4版/32p.）をまとめ、3,000部を発行、2,000部を配布しました（18p. 参照）。こうした取り組みを維持し、拡げるためには、金融などどのような社会的環境の整備が必要なのか、という議論を継続しています。

【依存症からの脱却—ギャンブル障害の調査・提案事業】

ホームレス状態にいたるきっかけのひとつであり、そこからの脱出を阻む足かせでもあるのが、ギャンブル障害の問題です。8期からこの問題に取り組み始め、9期には、米本副理事長を中心に専門家を招いて「ギャンブル依存症問題研究会」を組織し、2冊の報告書『疑似カジノ化している日本—ギャンブル依存症はどういうかたちの社会問題か？』（A4判/32p.）と、『ギャンブル依存症からの生還—回復者12人の記録』（A4判/88p.）を発行しました。この報告書は国会でのカジノ法をめぐる議論の参考にもされました（18p. 参照）。

第10期（17年6月）にはさらなる政策提案を行うため「ギャンブル依存症問題研究チーム」を発足。11期（17年10月）には、世界からカジノ事業者が集まる「世界ゲーム機博覧会」と「ギャンブル障害学会」の現地調査（ともにラスベガス）を行いつつ議論を進めました。その成果を、好評だった報告書第一弾のデータを更新し、ラスベガス調査やEGM（電子ゲーム機）の問題、そしてギャンブル障害の医学的考察などを付け加えた、『新版 疑似カジノ化している日本—ギャンブル障害を乗り越える社会へ』をまとめ、18年10月15日に発行しました。

また並行して、この研究会メンバーでもある京都大学大学院の研究者と協働し、ホームレス当事者とギャンブル障害との関係についてのインタビュー調査にも協力しました。この調査を土台に、京都大学との共同研究で、釜ヶ崎支援機構などの有力ホームレス支援NPOの協力のもと、「大阪市におけるホームレスのギャンブル依存症についての実態調査」へと発展させ、今期から第12期にかけて大規模な調査を行います。ホームレス当事者とギャンブル障害との関連を明らかにする、世界的にも珍しい調査になる予定です。



空港のスロットマシン（ラスベガス調査）



『新版 疑似カジノ化している日本』表紙

【ダイバーシティカップ（スポーツによる社会的包摂の空間づくり） ――ダイバーシティサッカー全国展開への第一歩】

ホームレスサッカーチーム「野武士ジャパン」の活動から発展し、2015 年から始まった「ダイバーシティカップ」。不登校やうつ病の経験者など、社会から孤立しスポーツと最も無縁な人たちが集い、サッカーを通じて交流するこの取り組みは、東京、大阪での計 5 回の大会を経て組織的にも「ダイバーシティサッカー協会」として結実しました。

2017 年 4 月から始まった「社会的困難を抱える若者のスポーツ応援事業」（平成 29 年度 独立行政 法人福祉医療機構助成事業）は、スポーツ交流サロン、「ダイバーシティカップ 4」、スポーツによる社会的不利・困難を抱える若者への応援を行う支援団体調査、の 3 つの事業を行いました。

スポーツ交流サロンは東京で月 2 回、2018 年 3 月までに延べ 582 人の参加がありました。「ダイバーシティカップ 4」（2017 年 11 月）には、約 200 人が参加しました。この交流サロンとダイバーシティカップの詳細は『2017 年度ダイバーシティサッカー活動報告書』（A4 版 /32p）にまとめ、紹介しています。

支援団体調査では、スポーツを通して多様な当事者を応援する全国の先行事例を調査しました。ギャンブルや薬物依存の当事者、フリースクールに通う若者向けにスポーツプログラムやフットサル大会を展開する団体などに、取り組みの目的や意義をインタビューし、2018 年 3 月『社会（スポーツ）をあそぶガイドブック―サッカーがつくる居心地の良い社会』（A4 版 /56p）にまとめ、発行しました。

2018 年 4 月からは、前期に続き福祉医療機構の助成を受け、ダイバーシティサッカーの全国展開に向けた第一歩を踏み出しました。具体的には、「ダイバーシティカップ in 関西実行委員会」との共催で、5 月には大阪で「第 1 回ダイバーシティカップ in 関西」を開き約 150 人が参加。東京では、8 月にスポーツによる若者支援や社会参加を広げるための「ダイバーシティサッカー勉強会」を実施。約 40 人が参加し、各地での取り組みについて、意見交換をしました。オリンピックに象徴される勝ち負け第一の「競技性スポーツ」に対し、人と人をつなぐ「社会性スポーツ」の全国展開へ、確かな第一歩を踏み出しています。



第 1 回ダイバーシティカップ in 関西の様子



『2017 年度ダイバーシティサッカー活動報告書』



『社会（スポーツ）をあそぶガイドブック』

ビッグイシュー基金の活動は現場も、政策提案も、そして全国各地でもと多岐にわたっています。これは多くのボランティアのみなさんや、寄付をして下さる方々の参加があってこそです。というよりも、1,130 人のボランティア、延べ 2,892 人の寄付参加者が基金の活動をつくっているのだと考えています。この他、多くの市民、団体、組織、企業の応援に支えられています。

【参加のチャンスをつくる―ボランティア参加プログラム】

今期のボランティア登録者数は、東京 618 人、大阪 437 人の他、札幌、仙台、立川、横浜、三鷹、名古屋、京都、岡山、福岡、熊本、鹿児島などの各地サポーター 75 人、あわせて合計 1,130 人でした。4 月にはボランティア登録者に、基金の活動で参加したいプログラムの内容や動機などを伺うアンケートを行い、自由記述では「ボランティア参加プログラムの充実」や「若者の参加を促してほしい」などたくさんのご意見をいただきました。また、ボランティアに参加してよかったことは、という設問で最も多かった回答は、「新しい経験ができた」というものでした。いただいたご意見は今後のプログラム設計の参考にさせていただきます。

また今期は、6 人の学生インターンを受け入れ、ホームレス問題に主体的に関わる場と機会を提供しました。

定例の参加プログラムである、月 2 回の会報誌発送作業やフットサル練習にも多くの参加がありました。今期は土日開催のプログラムを増やしたこともあって、熱中症対策のドリンク作成、おにぎり作り、多彩なイベントの準備や撮影記録、夜回りなどの巡回活動、月例サロンでの調理補助、クラブ活動講師など、多様な形の参加がありました。



おにぎり・ドリンクづくりのーコマ

（ボランティア説明会―東京・大阪で毎月 1 回開催）

ホームレス問題やビッグイシュー基金の活動、ボランティアを多くの人に知っていただくために、東京・大阪で月 1 回定例の説明会を開催しています。今期は大阪で 20 人、東京で 56 人の方が説明会に参加されました。説明会の後、希望者にはボランティアメーリングリストに入ってください、定期的にボランティア情報をお伝えしています。

◇東京事務所：第 2 土曜日 13 時～（月によっては変更の場合あり）

◇大阪事務所：第 2 または 4 土曜日 13 時～

※参加をご希望の方は、基金サイト (<https://bigissue.or.jp/>) のお問い合わせフォームまたはお電話（大阪：06-6345-1517、東京：03-6380-5088）で、ご連絡ください。

【市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付、物品寄付―寄付参加プログラム】

市民応援会員と寄付参加者は合計延べ 2,892 人、金額では合計 3,560 万円となりました。10 期と比較して、寄付参加者延べ人数では 134 人増えましたが、大口の遺贈寄付が減った分、寄付金額では 659 万円の減収となりました。

会員・寄付者の内訳

第 11 期の市民応援会員、メニュー寄付参加者、任意寄付参加者は以下の通りとなりました。

(市民応援会員)

にっこり (307 人) / ひとり立ち (92 人) 計 399 人 (会費金額計 921 万円) / 企業・団体サポーター計 2 件 (会費金額計 125 万円) → 個人、団体合計 1,046 万円

(メニュー寄付への参加)

出合い (282 人) / つながりウォーク (300 人) / 実践応援ラン (97 人) / 社会包摂マラソン (78 人) / 市民信頼社会 (36 人) 計 793 人 (メニュー寄付金額計 1,385 万円)

(任意寄付)

任意寄付は 1,167 人、遺贈寄付は 3 人、その他寄付 (チャリボン等) は 528 人、計 1,698 人 (任意、遺贈、その他の寄付金額計 1,130 万円)

こうした市民応援会員、メニュー寄付、任意寄付は目的や用途などを限定される補助金とは違って、社会の変化に柔軟に対応ができ、独自の縛りの少ない資金として、タイムリーな事業企画や、またスタッフのアイディアや自発性を活かすことにもつながっています。改めて寄付参加者のみなさんに心からの感謝とお礼を申し上げます。ありがとうございます。

寄付参加者の方へは、毎月、ニュースレターで事前、事後の活動報告を行い、ともに活動をしていく参加者になっていただけるよう努力しています。また、寄付金については税制優遇を受けていただけるため、2017 年度分の寄付金控除のための領収書を 831 人にお送りし、所得税からの寄付者への返金額の合計は約 1,083 万円となりました (18 年 1 月下旬送付)。

なお今期は、寄付参加促進のため、大阪府内に居住の方は所得税に加え、個人住民税においても、寄付額の一部が返金対象になるように府・市への条例指定申請をしました。これにより、大阪府・大阪市にお住まいの方は納税額から寄付額の最大約 5 割が確定申告によって返金されるようになります。また 8 月には会報の『ビッグイシュー基金通信』に遺贈寄付広告を掲載しました。引き続き寄付参加しやすい仕組みづくりを検討します。

(物品寄付)

Facebook や基金 H P、メーリングリストなどを通じて寄付募集を行いました。継続的に応援いただいている企業や連携団体、たくさんの市民の方から食料品や衣料品、生活用品やタオル等の物品の寄付をいただき、今期 288 件 (東京 207 件、大阪 81 件) の物品寄付がありました。それらは随時、夜回りや事務所に訪れた当事者の方に配布しました。

古本や T シャツで「ホームレスの自立を支援」—チャリボン・J A M M I N

書籍や D V D をバリューブックスに送ることで N P O を支援できるのが「チャリボン」です。2013 年 4 月から 2018 年 8 月末までに 2,453 人の方から古本をお送りいただき、買い取り相当額の 4,766,269 円のご寄付をいただきました。仕組みや詳細についてはチャリボンのサイト (<https://www.charibon.jp/>) をご覧ください。また、チャリティ専門のアパレルブランド「J A M M I N」が、ソケリッサとのコラボ T シャツを制作。2018 年 7 月からの 1 週間で 200 点以上が購入され、集まった 165,600 円のご寄付は、ソケリッサの活動資金として使われました。

広報—インターネットでの広報に注力

広報活動では、基金便りや基金通信「希望前線」を各 24 回発行の他、基金パンフレットを改訂しました。また、ホームページの全面改訂作業を行い、ビッグイシューオンライン、Facebook 等の SNS との効果的な連携を話し合う会議を開きながら、Web での広報に力を入れました。検索サイトでの「ホームレス」、「ギャンブル依存症」などの単語から基金 H P に誘導する広告文を表示する、グーグル社提供のシステムを継続的に運用しました。

メディア掲載

(新聞)

2017 年 10 月 20 日 朝日新聞 「食」考える「大阪ホームレス会議」

2017 年 11 月 29 日 朝日新聞 (夕刊) 路上生活者 魂の舞 (ソケリッサ)

2017 年 12 月 9 日 朝日新聞 生きづらさ蹴っ飛ばせ (サッカー)

2017 年 12 月 28 日 毎日新聞 (夕刊) つながれ生きる希望 (サッカー)

2017 年 12 月 30 日 大阪日日新聞 生きやすい社会へ あたたかいクリスマス

2018 年 5 月 9 日 大阪日日新聞 「ビッグイシュー基金」がフットサルで交流

2018 年 5 月 16 日 毎日新聞大阪市内版 フットサルで交流 西成区で大会

(雑誌)

2018 年 2 月 5 日 AERA

2018 年 4 月 1 日 AQUA マイライン

2018 年 6 月 25 日 くらしと協同

2018 年 7 月 5 日 CANVAS NEWS

(WEB メディア)

2018 年 6 月 28 日 笑うメディア・クレイジー

ホームレス状態の方の自立を応援する「路上脱出ガイド」

【オフィスの新規拡張を兼ねた「市民交流サロン」の創設】

スタッフ、当事者、ボランティアが集まり、活動するビッグイシューの事務所は年々手狭になり、東京・大阪オフィスの移転、拡張をしたいと考えています。そしてその際、当事者を中心に、市民が集まって交流でき、カフェや図書室などの居場所スペースも併設された「交流サロン」の創設を夢見て、イメージに合う物件の情報収集を継続しています。

今期は大阪で複数の候補物件を内見し、大阪市北区にある 4 階建て、リノベーション可能な一棟貸しの物件に申し込みをしましたが、残念なことに、これまでのビルではまったくなかった「近隣とのトラブルが心配」という理由で貸主からお断りがあり、最終的に契約には至りませんでした。継続して、東京・大阪 2 拠点での新しい場所を探しています。情報の提供をいただければ嬉しく思います。

これまでの発行物一覧



『路上脱出・生活
SOSガイド』大阪編
2017年10月 (A5/44p)



『路上脱出ガイド』
東京23区編
2015年8月 (A5/52p)



新版『疑似カジノ化
している日本』
2018年10月 (A4/36p)



『ギャンブル依存症
からの生還』
2016年8月 (A4/88p)



『疑似カジノ化
している日本』※絶版
2015年10月 (A4/32p)



『若者の住宅問題
& 空き家活用』
2015年10月 (A4/24p)



『若者の住宅問題 - 住宅政策
提案書 [調査編]』
2014年12月 (A4/40p)



『住宅政策提案書』
2013年10月 (A4/24p)



『若者政策提案書』
※絶版
2015年2月 (A4/32p)



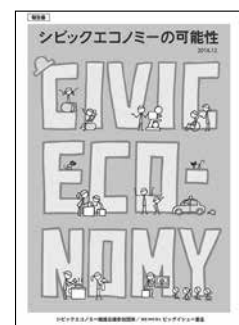
『若者応援プログラム集』
※絶版
2014年3月 (A4/116p)



『若者ホームレス白書②』
2012年3月 (B5/32p)



『若者ホームレス白書』
2010年12月 (B5/32p)



『シビックエコノミー
の可能性』
2016年12月 (A4/32p)



『社会(スポーツ)をあそぶガイドブック
ーサッカーが作る居心地の良い社会』
2018年3月 (A4/56p)



『2017年度ダイバーシティ
サッカー活動報告書』
2018年3月 (A4/32p)



『第2回ダイバーシティ
カップ報告書』
2016年11月 (A4/56p)

ありがとうございました ― 市民・組織・団体・企業のご協力とご参加

【助成金】

公益財団法人 パブリックリソース財団／独立行政法人福祉医療機構

【企業・団体寄付】

S O M P Oちきゅう倶楽部 (S O M P Oホールディングス傘下のグループ会社従業員によるボランティア基金)／有限会社フットフィール／株式会社北洋舎クリーニング／此花区 (医) 小山医院／エンジェルピプノ・インスティテュート／宗教法人カトリック・ノートルダム教育修道女会／前田医院／八王子市つるた勝巳税理士事務所／キーン・ジャパン合同会社／株式会社出版文化社／ゾーホー・ジャパン株式会社／巣鴨レディースクリニック／原田・商事株式会社／ティグレ連合会／ホワイと& ケースコミュニティカップ有志

【寄付サイトからの寄付】

公益財団法人 パブリックリソース財団 (ギブワン、<http://www.giveone.net/>)

株式会社バリューブックス (チャリボン、<https://www.charibon.jp/>)

JAMMIN 合同会社 (チャリティ T シャツ制作・販売、<https://jammin.co.jp/>)

【物資の寄付】

U B S 証券株式会社 (医薬品、食品、衣料など)／認定 NPO 法人フードバンク関西 (食品)／有限会社トウロッシュ (衣料)／ホワイと& ケース外国法事務弁護士事務所 ホワイと& ケース法律事務所 (外国法共同事業) (衣料)／キーン・ジャパン合同会社 (靴)／ポートピアグリーンチーム (衣料、日用品)

【各地のサポーター組織】

ビッグイシューさっぽろ／仙台ビッグイシューソサイエティ／NPO 法人萌友 (仙台)／NPO 法人仙台夜まわりグループ／木曜パトロール市民の会 (横浜)／NPO 法人さんきゅうハウス (立川市)／びよんどネット (三鷹市)／真宗大谷派聞善寺 (金沢市)／ビッグイシュー名古屋ネット／NPO 法人釜ヶ崎支援機構／ビッグイシュー日本京都事務所 (社団法人関西厚生協会)／NPO 法人岡山・ホームレス支援きずな／ビッグイシュー福岡サポーターズ／ビッグイシューくまもとチーム／ビッグイシューかごしまサポーターズ

【その他】

グーグル株式会社／株式会社セールスフォース・ドットコム

※上記資料は、無料で配布中です。お名前・ご住所・冊数などを HP の入力フォーム、または FAX でお知らせください。(着払い送料のみご負担をお願いします)

決算報告

第 11 期の市民応援会費、寄付、助成金などの経常収益は 4,577 万円となりました。第 10 期と比べ、使途が限定された助成金収入は 694 万円増えましたが、遺贈寄付が減ったため、寄付金収入では 659 万円の減収となりました。この結果、第 11 期の経常収支差額は△ 628 万円となり、第 10 期からの繰越金 477 万円を加えても、150 万円の赤字となりました。今期受け入れた助成金（863 万円）のうち、来期の 2019 年 3 月まで事業を行う 579 万円については、第 12 期に繰り越しています。（注記の 5. を参照）

【活動計算書 2017年9月1日から2018年8月31日まで】

科 目		金額（単位：円）	
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員受取会費	170,000		
賛助会員受取会費	10,455,000	10,625,000	
2. 受取寄付金			
受取寄付金	25,147,402	25,147,402	
3. 受取助成金等			
受取助成金	8,360,433	8,360,433	
4. 事業収益			
生活自立応援事業収益	1,019,598		
政策提案事業収益	400,350	1,419,948	
5. その他収益			
受取利息	30		
雑収益	212,913	212,943	
経常収益 計		45,765,726	
II 経常費用			
1. 事業費			
人件費			
給料手当	15,439,230		
臨時雇賃金	4,842,808		
法定福利費	3,222,554		
通勤費	1,521,346	25,025,938	
その他経費			
業務委託費	1,883,599		
諸謝金	2,067,779		
印刷製本費	1,112,760		
会議費	1,157,526		
旅費交通費	2,805,039		
通信運搬費	1,771,203		
消耗品費	783,085		
家賃（光熱費含）	2,992,687		
賃借料	2,522,734		
保険料	310,980		
諸会費	30,000		
租税公課	1,600		
研修費	84,078		
広報費	3,110,400		
会報費	2,607,080		
寄付金	125,000		
支払手数料	435,114		
雑費	252,152	24,052,816	
事業費 計		49,078,754	
2. 管理費			
人件費			
給料手当	580,608		
臨時雇賃金	80,171		
法定福利費	102,203		
通勤費	55,596		
福利厚生費	56,327	874,905	
その他経費			
印刷製本費	232,374		
会議費	52,202		
旅費交通費	340,019		
通信運搬費	482,813		
消耗品費	14,610		
家賃（光熱費含）	157,510		
賃借料	129,324		
諸会費	10,800		
租税公課	4,250		
支払手数料	498,871		
支払利息	25,063	1,947,836	
管理費 計		2,822,741	
経常費用 計		51,901,495	
税引前当期正味財産増減額		△ 6,135,769	
法人税、住民税及び事業税		140,000	
当期正味財産増減額		△ 6,275,769	
前期正味財産額		4,773,443	
次期正味財産額		△ 1,502,326	

【貸借対照表 2018 年 8 月 31 日現在】

科 目		金額（単位：円）		
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金	10,532,490			
未収金	380,000	10,912,490		
2. 固定資産			0	
資産合計				10,912,490
II 負債の部				
1. 流動負債				
前受金	5,793,558			
仮受金	772,132			
長期借入金（1 年内返済予定）	1,044,000			
預り金	65,026			
当事者預り金	999,100	8,673,816		
2. 固定負債				
長期借入金	3,741,000	3,741,000		
負債合計				12,414,816
III 正味財産の部				
前期繰越正味財産		4,773,443		
当期正味財産増減額		△ 6,275,769		
正味財産合計				△ 1,502,326
負債及び正味財産合計				10,912,490

【財産目録 2018 年 8 月 31 日現在】

科目・摘要		金額（単位：円）		
I 資産の部				
1. 流動資産				
現金預金				
手元現金	781,327			
普通預金（三菱UFJ 銀行堂島支店）	2,671,708			
普通預金（三菱UFJ 銀行助成用）	5,913,719			
普通預金（三菱UFJ 銀行新宿支店）	680,000			
郵便振替	216,545			
普通預金（ゆうちょ銀行）	164,400			
普通預金（みずほ銀行）	104,791			
未収金				
賛助会員受取会費未収金（カード利用）	380,000	10,912,490		
2. 固定資産		0	0	
資産合計				10,912,490
II 負債の部				
1. 流動負債				
前受金（㈱福祉医療機構）	5,793,558			
仮受金（㈱ビッグイシュー日本）	772,132			
長期借入金（1 年内返済予定、日本政策金融公庫）	1,044,000			
預り金（源泉所得税）	65,026			
当事者預り金（生活自立積立金）	999,100	8,673,816		
2. 固定負債				
長期借入金（日本政策金融公庫）	3,741,000	3,741,000		
負債合計				12,414,816
正味財産				△ 1,502,326

【計算書類の注記】

1、重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO 法人会計基準によっています。

（1）消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税込方式によっています。なお、当法人は消費税免税事業者です。

（2）事業費管理費共通経費の按分

共通経費は業務の従事割合によって按分しています。

2、事業費の内訳

事業費内訳	生活自立応援事業			ホームレス問題等社会問題解決のための政策提案事業			活動への当事者や市民の参加応援事業	事業費計
	生活自立応援	就業応援	スポーツ・文化活動応援	若者応援ネットワーク	住宅政策提案	キャンブル依存症問題	ダイバーシティ	
人件費								
給料手当	10,880,216	1,418,010	1,235,344	385,402	412,242	356,722	0	751,294
臨時雇賃金	1,028,672	55,419	0	4,153	0	0	3,583,205	171,359
法定福利費	2,055,969	265,269	233,564	73,521	78,797	68,016	304,548	142,870
通勤費	869,114	71,890	71,808	28,541	33,384	26,241	322,680	97,688
人件費計	14,833,971	1,810,588	1,540,716	491,617	524,423	450,979	4,210,433	1,163,211
その他経費								
業務委託費	1,176,720	0	10,000	104,019	0	0	410,340	182,520
諸謝金	230,779	0	115,000	10,000	0	0	1,712,000	0
印刷製本費	526,860	0	500	0	0	80	455,060	130,260
会議費	528,493	21,807	78,921	2,680	0	95,368	426,987	3,270
旅費交通費	1,103,045	52,746	233,349	8,686	57,706	524,383	718,553	106,571
通信運搬費	8,623	0	9,943	3,040	0	0	158,865	1,590,732
消耗品費	202,954	3,650	47,401	9,885	0	0	253,395	265,800
家賃（光熱費含）	1,512,095	220,513	189,012	94,506	94,506	63,004	630,039	189,012
賃借料	838,444	24,020	230,220	32,400	0	0	1,397,650	0
保険料	7,170	0	26,560	1,200	0	0	276,050	0
諸会費	10,000	0	0	0	0	0	0	20,000
租税公課	1,150	0	450	0	0	0	0	0
研修費	2,500	0	500	4,000	4,732	71,446	0	900
広報費	0	0	0	0	0	0	0	3,110,400
会報費	0	0	0	0	0	0	0	2,607,080
寄付金	125,000	0	0	0	0	0	0	0
支払手数料	25,475	0	3,147	793	0	1,080	73,326	331,293
雑費	189,628	18,000	29,400	0	0	3,024	12,100	0
その他経費計	6,488,936	340,736	974,403	271,209	156,944	758,385	6,524,365	8,537,838
事業費計	21,322,907	2,151,324	2,515,119	762,826	681,367	1,209,364	10,734,798	9,701,049

3、当事者預り金の内訳

内容	期首残高	当期増減	期末残高
生活自立積立金	1,038,100	△ 39,000	999,100
合計	1,038,100	△ 39,000	999,100

4、役員及びその近親者との取引

科目	計算書類に計上された金額	内役員及び近親者との取引
家賃（光熱費含）	3,150,197	3,150,197
広報費	3,110,400	3,110,400
会報費	2,607,080	2,607,080

5、使途が制約された助成金の内訳

内容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備考
平成 29 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 助成金	0	5,216,781	5,216,781	0	社会的困難を抱える若者のスポーツ応援事業用として平成 29 年度交付を受けた助成金 6,433,000 円のうちの当期使用分であり、未使用額はありません。
平成 30 年度 独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 助成金	0	2,835,442	2,835,442	0	社会的困難な若者へのスポーツ応援展開事業用として交付を受けた助成金 8,629,000 円のうち、未使用で返還義務のある 5,793,558 円は前受助成金として負債に計上しています。

6、長期借入金の増減内訳

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
長期借入金	0	5,000,000	215,000	4,785,000
合計	0	5,000,000	215,000	4,785,000

監 査 報 告	
1 監査の方法の概要 業務執行については、代表理事等から、現在会員数、活動内容等を聴取し、財産の状況については、損益計算書、貸借対照表の開示及び説明を受けました。他方、適宜、総勘定元帳、入金伝票、領収書、通帳の写し、郵便振替票等につき検討を加えました。	
2 監査の結果 特定非営利活動法人ビッグイシュー基金の業務報告及び決算報告について、2017（平成29）年9月1日から2018（平成30）年8月31日までの監査を行った結果、客観的資料にもとづき明瞭かつ正確であって、適法であることを認めます。 なお、業務または財産に関して、指摘すべき、不正の行為または法令、定款違反の重大事実はありません。	
2018（平成30）年10月18日	
特定非営利活動法人ビッグイシュー基金監事 木 原 万 樹 子	

社会参加のメニュー寄付

2012 年 7 月、認定 N P O 法人となったため、基金への寄付は税制優遇されます。ご寄付をいただくと、納められた所得税から寄付額の 4 割弱が返金されます。（返金の上限額は納付所得税の 25 % まで）公のことはすべて国が税で賄うという建前を変え、公を認定 N P O 法人にも担ってもらい、その分、税の一部を返金する、という仕組みです。公共の仕事を「税＝国家」でするのか？「寄付＝N P O」でするのか？を選んで決めるのは、納税し寄付するあなたです。

市民の寄付で社会を変える時代がやってきました。寄付による社会変革、あなたも参加しませんか。

税制優遇の対象です。「(寄付金合計額 - 2 千円) × 40 %」が税額から控除
できます（確定申告が必要）。＊雑誌送付などの特典はありません。

**出会い寄付**
5,000 円 / 1 口（返金額は 1,200 円）

**つながりウォーク寄付**
10,000 円 / 1 口（返金額は 3,200 円）

**実践応援ラン寄付**
20,000 円 / 1 口（返金額は 7,200 円）

**社会包摂マラソン寄付**
50,000 円 / 1 口（返金額は 19,200 円）

**市民信頼社会寄付**
100,000 円 / 1 口（返金額は 39,200 円）

●任意額寄付
事務手続き上 1,000 円からの受付となります。

●マンスリー寄付
月額 1,000 円 × 1 口～。
(HP から受け付けています)

●法人寄付
損金算入限度額の枠が拡大されます。

●遺贈・相続財産の寄付
寄付された相続財産には相続税がかかりません。
＊遺贈、相続財産の寄付をお考えの方には、当基金の顧問弁護士、会計士が法律や税務などの相談をさせていただきます。お気軽に電話・E メールでご連絡ください。

＊ご寄付をいただいたみなさまには、毎月発行のニューズレター、年次報告書（年 1 回）をお送りします。

市民応援会員 特典があります（税制優遇の対象外です）

**にっこり応援会員** 年会費：15,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】 年次報告書（年 1 回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1 冊 1 年 24 回分を毎号送付 & 最新号にお名前を掲載

**ひとり立ち応援会員** 年会費：50,000 円（誌代相当分を含む）
【特典】 年次報告書（年 1 回）の送付
「ビッグイシュー基金通信」掲載の『ビッグイシュー日本版』1 冊 1 年 24 回分を毎号送付 & 雑誌に 1 年間お名前を掲載、ビッグイシュー基金のパーティにペアでご招待（年 1 回）

企業・団体「社会再生」サポーター 特典があります（税制優遇の対象外です）

●キャリア再形成・サポーター会員 年会費：250,000 円 ●社会復帰・サポーター会員 年会費：500,000 円 ●社会再生・サポーター会員 年会費：1,000,000 円
＊『ビッグイシュー日本版』1 冊を 1 年分毎号送付、誌面に 1 年間お名前掲載などの特典あり ＊年会費に誌代相当分を含む

<振込み> 郵便振替：口座番号 00960-6-141876 口座名義 NPO 法人ビッグイシュー基金
お振込みの際は寄付・会員の別、連絡先（お名前、郵便番号、ご住所、電話番号）を明記ください。

<クレジットカード> ビッグイシュー基金のホームページ（<https://bigissue.or.jp/>）からご利用いただけます。

銀行での振込みをご希望の場合は、大阪事務所（06-6345-1517）までお問い合わせ下さい。

※個人の方のご寄付の領収書は 1 月～ 12 月入金分をまとめて翌年 1 月下旬に発行・送付させていただきます。
(これを、確定申告時に提出していただくと納付税額から寄付額の 4 割弱が返金されます)

ビッグイシュー基金は、有限会社ビッグイシュー日本（※）を母体に 07 年 9 月に設立した、ホームレスの人々の自立を応援する非営利団体です。12 年 7 月 1 日に認定 NPO 法人となり、当基金への寄付は税制優遇されることになりました。ビッグイシュー基金は①ホームレスの人々の自立応援、②ホームレス問題解決のネットワークづくりと政策提案、③市民のボランティアや寄付参加、という 3 つの柱の活動を通じて、社会的排除と貧困問題という氷山の頂点にあるホームレス問題の解決に取り組みます。それらを通して市民、ホームレスの人とともに、誰にでも居場所と出番のある包摂社会の形成をめざします。

「機会」豊かな市民信頼社会を――ビッグイシュー基金が目指すもの

ビッグイシュー基金は、自立の応援、モノやおカネではない「チャンス」の提供、ホームレスの人をパートナーにする、という考え方をもっています。多くの NPO、企業や時には政府とも協力しホームレスの人々の「自立」支援を、「自助型の応援」を基本に進めています。

また、市民応援会員、市民寄付者などを中心に、多くのボランティアや市民とともに、市民同士の協力と共同を促進し、市民が当事者になれる活動を行い、再チャレンジしやすい「機会の豊かな」市民信頼社会の形成に貢献したい、と考えています。

そして、上記の 3 つの基本応援プログラムに加え、ホームレスの人々が望めば、今すぐにサッカー、文学賞などスポーツ・文化のクラブ活動への参加もできます。そして、当事者として、生きる喜びや誇り、元気を回復し、自ら問題解決の担い手になってもらいたいと考えています。

団体概要
☐ 名 称 認定 NPO 法人 ビッグイシュー基金
☐ 設 立 2007 年 9 月設立、08 年 4 月 NPO 法人の認証、12 年 7 月国税庁、17 年 3 月大阪府認定 NPO 法人格取得
☐ 所 在 地 【事務局】 〒 530-0003 大阪府北区堂島 2 丁目 3-2 堂北ビル 4 階
Tel 06-6345-1517 Fax 06-6457-1358
HP : <https://bigissue.or.jp/> E-mail : info@bigissue.or.jp
【東京事務所】 〒 162-0065 東京都新宿区住吉町 8-5 シンカイビル 201 号室
Tel 03-6380-5088 Fax 03-6802-6074

☐ 役 員 理事長 佐野 章二（有限会社ビッグイシュー日本共同代表）
副理事長 米本 昌平（東京大学客員教授）
理 事 稲葉 剛（立教大学大学院特任准教授／一般社団法人つくろい東京ファンド代表理事）
井上 英之（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 特別招聘准教授／一般社団法人 INNO-Lab International 共同代表）
枝元 なほみ（料理研究家）
中川 康生（ビッグイシュー基金法務担当責任者）
蛭間 芳樹（野武士ジャパンコーチ／世界経済フォーラム ヤング・グローバル・リーダー 2015）
水越 洋子（『ビッグイシュー日本版』編集長）
監 事 木原 万樹子（木原法律事務所弁護士）
相談役 雨宮 処凛（作家）
☐ スタッフ 高野太一 粟原奈津子 川上翔
永井悠大 保井力 長谷川知広 吉武華子 佐野ハナ 古川智朗

（※）有限会社ビッグイシュー日本とは？
ビッグイシュー日本は、「ホームレスの人々の救済ではなく仕事を提供し、自立を応援する」ことを目的に活動している有限会社です。ホームレスの人々の自立・自活をすすめるために、雑誌を制作し、路上で彼らに独占的に販売してもらい、その売り上げの 50 % 以上を収入にしようという仕組みをつくっています。03 年 9 月から 18 年 8 月までの 15 年間で 1,837 人が販売者に登録し、200 人が仕事を得て自立しました。また、累計 820 万冊を販売、12 億 3,556 万円の収入をホームレスの人たちに提供しました。